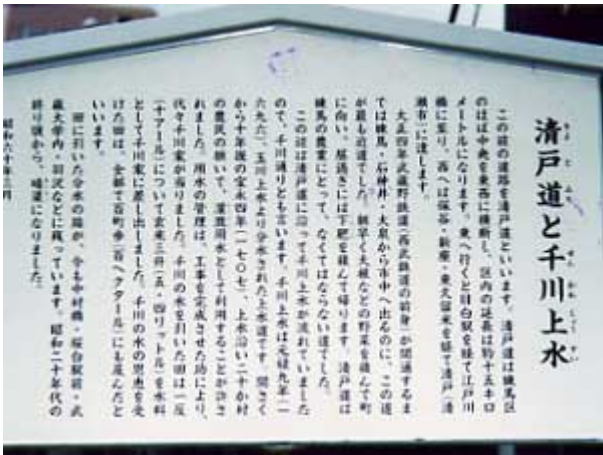


# 千川上水 . . .



桜台駅を降りて南に進み、千川通りの桜並木に沿って歩いていますと、『清戸道と千川上水』と題された解説板が立っています。内容の一部をここに紹介しますと、

この前の道路を清戸道と言い、練馬区のほぼ中央を東西に15km貫通し、江戸川橋目白方面から西へ保谷、東久留米を経て清瀬に達します。(清戸とは清瀬の昔の名称) 大正4年武蔵野鉄道(西武鉄道の前身)が開通するまでは、練馬、石神井、大泉から神田を始めとする市中に出る近道として利用され、朝早く大根や野菜を運んで町に向かい、昼過ぎには下肥を積んで帰るといふ、農家にとってはなくてはならない重要な道路でした。またこの道に沿って千川上水が流れていたため、現在では千川通りの名称の方が広く使われるようになりました。千川上水は、1696年に、江戸下町方面の飲用水として、玉川上水から分水された上水道です。灌漑用としては開通から10年後に許されました。

とあります。



少し追記しますと、上水とは今で言う水道で、江戸時代に、5代将軍綱吉の命で掘られたものです。玉川上水から分水して、練馬、巢鴨を通り、中山道の下は木樋で通水して、小石川白山御殿、上野寛永時、湯島聖堂、浅草寺のほか、江戸の諸大名屋敷に給水されていたそうで

す。河村端軒の設計により、多摩郡仙川村（京王線仙川駅周辺）の百姓徳兵衛・太兵衛の両名により開発され、そのため、上水完成後は、その功により「千川」の姓を与えられるとともに、代々上水の管理に当たることが許されました。廃止されたのは1907年、開削以来211年で幕を閉じたこととなります。また現在のような暗渠化の工事が区内で始まったのは1952年からだそうです。

ところで、この千川上水の一部が練馬区と武蔵野市の境に、約10kmの遊歩道とともに今風に再現されています。また、この分水の名残が、武蔵大学構内に「すすぎ川」と称して、その清流が残っています。4月初めの花見の季節には区民に開放していますので、是非一度お出かけ下さい。「桜台」の地名が、この千川上水沿いに植えられた見事な桜並木に由来していることを考えると、当時の姿を想像してみる絶好の機会かもしれません。

なお、武蔵大学については、別の機会に改めて紹介させていただきます。

最後になりましたが、下記URLにて、千川上水についての詳細な現況調査報告がなされていますので、興味ある方は一度ご訪問されることをお勧めします。

<http://www.city.nerima.tokyo.jp/shiryo/bunkazai/rekishi/senkawa/gaiyo01.html~gaiyo03.html>